

## 北海道海外悪性伝染病警戒本部幹事会 議事録

1 日 時 令和4年1月27日(木) 10:00~10:30

2 場 所 かでる2.7 520 会議室

3 出席者 別紙「出席者名簿」のとおり

### 4 協議事項

- (1) 野鳥における高病原性鳥インフルエンザの検出について
- (2) 今後の対応について
- (3) その他

(開 会)

#### 【山口食の安全推進局長】

- ただ今から、「北海道海外悪性伝染病警戒本部幹事会」を開催する。
- 本日司会を務める食の安全推進局長の山口でございます。
- 開会にあたり、農政部 横田食の安全推進監から御挨拶申し上げます。

(挨 拶)

#### 【横田食の安全推進監】

- 農政部食の安心推進監の横田でございます。本日は急遽の開催となった「北海道海外悪性伝染病警戒本部幹事会」にお集まりいただき感謝。
- ご案内のとおり、1月20日に根室市で回収されたハシブトガラスの死体から昨日、高病原性鳥インフルエンザウイルスが検出。  
すでに1月7日にもオジロワシで高病原性のウイルスが確認され、幹事会を书面開催したところであるが、今回は、農場に近い存在であるカラスから確認されたことで、より一層の危機感を持って対応していく必要があることから、新型コロナウイルス感染症の拡大が続いている中ではあるが、お集まりいただいた。
- 今シーズン、道内の養鶏所では、生産者並びに関係のみなさまのご努力により発生は見られていないが、国内の養鶏所では、昨日26日にも千葉県で発生するなど、これまでに東北から九州まで、9件15例が確認されており、非常に発生のリスクが高い状況が続いている。
- 本日の幹事会では、道内での高病原性鳥インフルエンザの発生を確実に防ぐため、野鳥でのウイルスの検出や、家きんでも発生の状況などについて警戒本部内での認識、危機感を共有するとともに、万が一の発生の際は迅速に初動対応がとれるよう、一層の連携強化を図っていきたいのでよろしく願います。

**【山口食の安全推進局長】**

- 資料の確認。
- 協議事項（１）野鳥における高病原性鳥インフルエンザの検出についてまず環境生活部から説明願う。

（協議事項（１）野鳥における高病原性鳥インフルエンザの検出について）

**【環境生活部自然環境課 鈴木担当課長】**

- 野鳥における高病原性鳥インフルエンザの検出について資料１（根室振興局管内で回収された死亡野鳥（ハシブトガラス）における高病原性鳥インフルエンザウイルスの確認について）に基づき説明。  
（質 疑）

**【農政部技術普及課 鈴木課長】**

- ハシブトガラスの死亡原因は何だと考えられるか。また、カラスの発症事例は12事例あるとのことだが、どこの地域でみられているのか。

**【環境生活部自然環境課 鈴木担当課長】**

- 死亡原因については現時点でまだ解明されていないが、死亡個体から高病原性鳥インフルエンザウイルスが検出されていることから、ウイルスが原因ではないかと考えられる。また、12事例というのは今シーズン国内野鳥で高病原性鳥インフルエンザの発症が確認された事例の数であり、カラスは今シーズン国内では初の発症事例である。直近ではH30にカラスの発症が確認されている。

—他に質疑なし—

**【山口食の安全推進局長】**

- 続いて協議事項（２）今後の対応について農政部から説明願う。

（協議事項（２）今後の対応について）

**【農政部畜産振興課 山口家畜衛生担当課長】**

- 道の取組状況について資料２（根室市内の死亡野鳥（ハシブトガラス）から高病原性鳥インフルエンザウイルス（H5 亜型）が確認されたことに伴う対応）に基づき説明。

—質疑なし—

**【山口食の安全推進局長】**

- それでは（３）その他について事務局から説明願う。

（協議事項（３）その他について）

**【山口食の安全推進局長】**

- 根室市のカラスの今後の対応について「同一場所での継続発生」の場合は幹事会は開催せず、情報提供とする。

**【農政部農政課 鈴木課長】**

- コロナ禍における防疫措置について説明。

**【山口食の安全推進局長】**

- 全体を通して質疑や話題提供等要望がある方は意見いただきたい。

—意見等なし—

（挨拶）

**【横田食の安全推進監】**

- くり返しになるが、今シーズンも、全国各地で高病原性鳥インフルエンザの発生が続いており、本道においても、相次いで、野鳥から高病原性のウイルスが確認されており、養鶏場への侵入リスクは非常に高い状態が続いている。
- 本病の発生を予防するには、一にも二にも、農場のバイオセキュリティの強化が必要。環境中に高病原性鳥インフルエンザウイルスの存在が明らかになっており、身近な存在のカラスもそのウイルスを持っているという状況の中、農場そのものに野鳥を近づけない意識での衛生管理の徹底、防鳥ネットによる対策など、病原体の侵入防止に向けて防衛対策のレベルをさらに引き上げ、消毒や日々の点検などの対策が、より確実に行われるよう、各方面から生産者と関係者に、繰り返し注意喚起をお願いする。
- 今後も、高病原性鳥インフルエンザの侵入・まん延防止に向け、皆様方と一丸となって取り組み、最大の効果を発揮していきたいと考えているのでよろしくお願い。

**【山口食の安全推進局長】**

- これをもって北海道海外悪性伝染病警戒本部幹事会を閉会する。